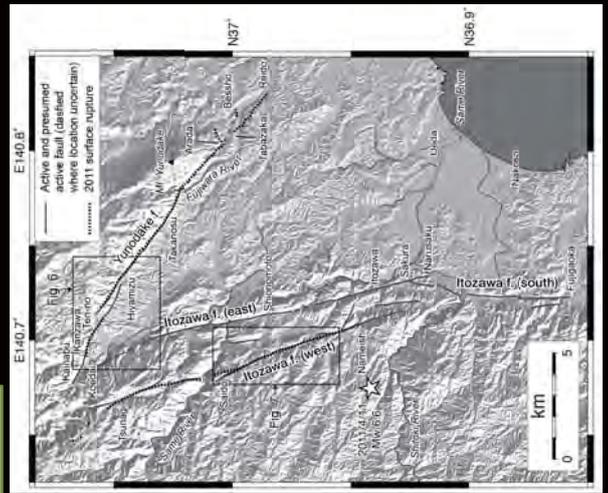


2011年4月に発生した福島県浜通りの地震は、以下のような点において、これまでの活断層研究の常識を覆す地震であった。

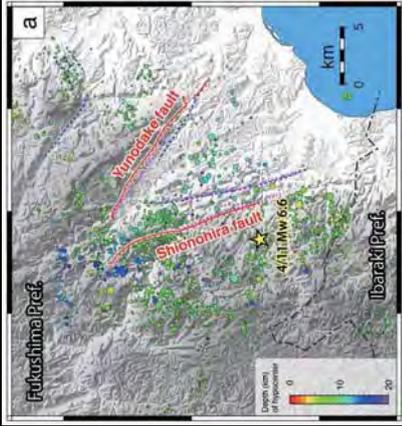
1. プレート沈み込みによる東西圧縮応力場にあり、南北走向の逆断層が卓越する東北日本において、内陸活断層上で正断層型の大地震が発生した
2. 断層変位地形が明瞭とはいえない確実度IIあるいは推定活断層が活動して、明瞭な地震断層を伴う大地震が発生した
3. ひとつの地震で、独立した2条の断層（湯ノ岳断層・井戸沢断層）が同時に破壊した
4. 海溝型超巨大地震の発生に誘発されて活動する内陸活断層が存在することが明らかとなった

### 活断層と地震断層



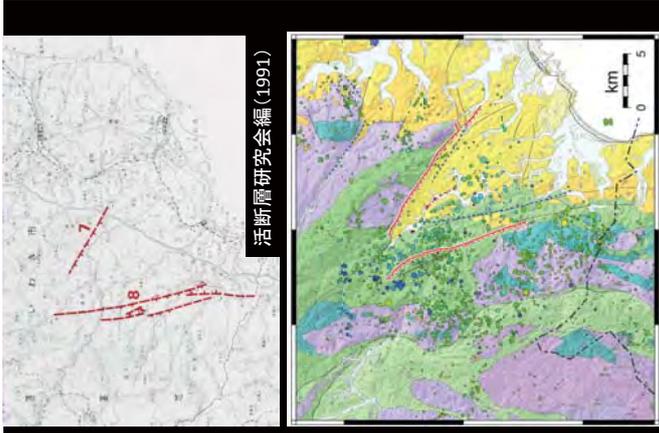
堤・遠田 (2012)

### 震源域の活断層



湯ノ岳断層・井戸沢断層  
確実度IIあるいは推定活断層として  
認定されていた

産総研シームレス地質図



### Evidence for the penultimate event

1. While units A-C show constant thickness across the fault zone, units X and Y are only on the downthrown side.
2. Units D-F are deformed more than units A-C and the ground surface
3. Open crack and liquefaction features in unit D

